

# まちづくりビジョン策定委員会（第21回）会議録

■ 日 時：平成26年11月7日（金）午後2時35分～午後5時20分

■ 場 所：みなかみ町観光センター 2階 第1会議室

■ 出席者：

①まちづくりビジョン策定委員会（7／13名）

小林 洋、津久井 功、木村 孝弘、持谷 美奈子、中島 エリ、本多 圭仁、  
鬼頭 春二

②アドバイザー（1／1名）

平松 庚三

③事務局（まちづくり交流課）（3／3名）

課長 宮崎 育雄、エコパーク推進室GL 小池 俊弘、主査 大川 志向

■ 配布資料

資料1 各分野の「現状・課題・目標・戦略・実行計画」

■ 会議内容

---

## 1 開会

## 2 議事

(1) 各分野の「現状・課題・目標・戦略・実行計画」について

○ 里山整備分野の「現状・課題・目標・戦略・実行計画」について確認を行う。

- ・岡山県西粟倉村では、役場が森林所有者から森林を預かり、10年間を一区切りとして長期的な管理を行っている。森林を整備するためには一定規模の面積を集約する必要があるが、業者が行う場合は、森林所有者の合意を形成することが高いハードルとなっている。ここに行政が関与することで、「合意が形成された順番」ではなく、「優先度の高い順番」で整備できるような体制を構築すべきである。また、西粟倉村では、間伐材の販路を拡大するために、株式会社を設立し村内で加工品を製造している。アクションプランとして、岡山県西粟倉村「百年の森林構想」モデルを検討することを含める。
- ・観光の町であるから、計画的に広葉樹の植林などを行い、観光資源となる景観を造成してもよい。ハワイのワイキキビーチも人工であるし、多額の設備投資が行われている。継続的に里山が整備されるためにも、間伐を行うだけではなく、観光資源としての利用を進めるべきではないか。また、鳥獣被害を防止するために、餌となるどんぐ

りなどの植林も検討する価値があるのではないか。戦略として、景観・鳥獣被害防止を意識した植林を追加する。

- ・サルやシカなどの動物によってヤマビルが運搬されている可能性が高く、生息地域が生活圏にまで拡大している。都市部からの観光客の多くはヤマビルの存在を知らないし、ヤマビルが多いとの噂が拡散すれば、観光のまちである本町にとって大きなダメージとなり得る。現在のところ、根本的な解決策としてヤマビルを駆除する方法はないが、草刈りや落ち葉かきをすることで個体数を減らしたり、野生動物を生活圏に近づけないことで被害を軽減したりすることはできる。また、ヤマビルの存在や個人での対策を周知し、ダメージコントロールを行うことが有効ではないか。アクションプランとして、総合的なヤマビル防除対策を計画的に実施することを追加する。

○ 人づくり分野の「現状・課題・目標・戦略・実行計画」について確認を行う。

- ・役場（町長から各課長）が文鎮型の組織となっていて、情報が共有・伝達されていないなど横の連携が弱い。効果的に機能させるためにも、ヒエラルキー型（ピラミッド型の段階的組織構造）とすべきで、例えば、役割を分担して副町長のポストを増やしてもよいし、総合政策課はコーポレートプランニングの部署であるから全体を統括する階層に位置すべき。かつては、ヒエラルキー型の組織は情報の伝達に時間がかかりすぎるといった弱点があったが、現在はメールやSNSを活用することで指定した範囲に一斉に情報を伝達することもできる。縦割り行政を解消するため、文鎮型組織の見直しによって横の連携を強化させる。
- ・また、職員の人材育成制度が機能していない。職員研修計画には、自主研修や職場研修（OJT）に委ねられているが、そこには目標とプログラム、評価の仕組みが必要。職員は40年も勤めるわけであるから、人材育成にもっと時間と経費を費やすべき。また、外部組織と人材が流動的になっていないため、硬直化してしまっている。メンタルヘルスだけでなく、リーダーシップや組織運営能力、職務遂行能力などを主眼とした人材育成研修を実施すべき。
- ・観光の町として、グローバル化に対応した人材の育成を推進すべき。全ての人が話せなくてもよいし堪能でなくてもよいので、観光に関連する組織を中心として職務・職責に応じた英語研修を実施したり、観光関連業者への語学研修費用の補助などを実施したりする。また、特区認定により小学校から英語を必修とするなど、英語教育を充実させる。
- ・経営をしたことがない人（役場OBなど）が、地方公社・第三セクター等の主要ポストにいるなど、効果を最大限に発揮できていない。もっと民間の血を入れるべきで、町内にも優秀な経営者はいるわけであるから、そういう人たちに活躍してもらうべきである。施設に常駐する必要はなく週に1日でよいし、経営者で組織した経営諮問委員会を設置するなどして、経営の仕組みを構築できればよい。そういう意味で、天下りの廃止や民間経営資源の有効活用をアクションプランに含める。

(2) 今後の委員会の進め方について

- ・今後開催する委員会では、策定されるビジョンが絵空事で終わらず、スピード感を持

って確実に実行に移されるよう、関係各課を招聘して、詳細や考え方の共有・精査、未設定の目標値等の検討を行う。

- ・また、景観づくり、二次交通対策、サイン類の充実など、観光分野のアクションプランとして検討していく。景観については、多くの人の意見を取り入れても集約することが困難となる可能性が高いため、世界的に著名なデザイナーなどに町のアートディレクターとして協力いただき、町の景観の基本方針を決めるという手法も考えられる。

### 3 次回委員会の開催について

- 次回の委員会について、次のとおり日時と場所が決まる。

日時：11月28日（金） 午後2時30分から

場所：役場本庁舎 6階 第2会議室

### 4 閉会